

明治期から昭和戦後期にかけての
キリスト教系幼稚園保育者の社会的ポジション

頌栄短期大学 高山育子

1 目的

設立 127 年を迎えた頌栄短期大学の前身は頌栄保姆伝習所であり、現存する最古の保育者養成機関である。創立者 A.L.ハウはアメリカン・ボードの教育宣教師であり、神戸教会からの幼稚園設立の要望に応じて来日した。よい幼稚園にはよい幼稚園教諭が必要であるとの考えから、幼稚園開園に先立って頌栄保姆伝習所を設立した。初期の学生は信仰に導かれ、学び、卒業後は各地のキリスト教系幼稚園で奉仕した。

ハウは明確に、幼稚園を伝道の一手段ととらえていた。一方、東京女子高等師範学校附属幼稚園にみるように官立の幼稚園は教育施設としての性格が強い。あるいは、野口幽香と森島美根の二葉幼稚園（のちに保育園）は「慈善事業」として始められた。このように、明治期の幼稚園には教育的性格のほか、伝道（信仰）の性格、そして福祉（慈善）の性格があったと考えられる。

一方で教諭の立場から考えると、当時の女性としては女学校卒業後に進学するという「高等教育」進学の側面、卒業後は職業女性としての生きるという側面、神や子どもに仕える伝道者という側面があったと考えられる。

本報告では、こうした複数の側面を併せもつキリスト教系養成学校の教師および幼稚園の教諭がどのような社会的ポジションにあったかを明らかにすることを目的とする。

2 方法

本報告でデータとして用いるのはキリスト教保育連盟発行の『キリスト教保育に捧げた人々』（1986 年）および『続・キリスト教保育に捧げた人々』（1988 年）である。同書は「キリスト教保育創始百年の記念」として機関紙『キリスト教保育』を通じて原稿が集められた。卒園児、若い保育者が主たる読者として想定されており、幼稚園教師養成学校の教師、キリスト教保育連盟に尽力した人々、地方のキリスト教保育を振興させた人々が選定されている。かならずしもその選択基準は明確ではないものの、前者には 66 項目 70 名、後者には 78 名が掲載されている。A.L.ハウ、野口幽香、徳永恕など日本幼稚園史に残る人物から始まり、存命人物も含まれている。研究者、弟子、同僚、夫人、子女がそれぞれ担当執筆している。

見開き 1 ページを基本として記述されている各人物の出自、学歴、職歴、信仰などの経歴をデータ化して、出生年ごとの特性を分析する。他の書誌によりこれらのデータが得られる人物に関しては、補足する。

表 1 『キリスト教保育に捧げた人々』掲載者の基本属性の変化

生年	計	女性	男性	日本人	日本人以外
1840-1888	40 27.0%	35 87.5%	5 12.5%	19 47.5%	21 52.5%
1889-1899	51 34.5%	38 74.5%	13 25.5%	39 76.5%	12 23.5%
1900-	57 38.5%	39 68.4%	18 31.6%	52 91.2%	5 8.8%
全体	148 100.0%	112 75.7%	36 24.3%	110 74.3%	38 25.7%

3 結果

表 1 に示すように、出生年が若くなるほど女性と日本人以外（外国人宣教師）が減り、男性と日本人が増えていく。また、正式な保育者養成機関を経て（と記述され）幼稚園に就職する人物が増える。

4 結論

資料の制約をふまえ、保育者養成史および幼稚園教育の拡大状況を背景として考察を行なう。

（詳細な結果および文献は報告当日提示する）